

# 道路せいそう

〒108-0023 東京都港区芝浦 4-17-4 日本ロードビル

TEL 03-6435-1664 FAX 03-6435-1665

e-mail [jimukyoku1@seisoujijutsu.or.jp](mailto:jimukyoku1@seisoujijutsu.or.jp)URL <http://www.seisoujijutsu.or.jp/>

発行 一般社団法人日本道路清掃技術協会 (昭和41年設立 平成4年9月創刊)

## 令和6年 第60回定時総会を開催



令和6年6月3日に第60回となる定時総会が東京ドームホテルにて、協会各社の代表者が集まり開催されました。

最初に亀田理事長から、前期はコロナが明けやっと通常の協会活動ができるようになり、意見交換会は関東地方整備局と中部地方整備局に加えて、令和5年度は初めて東北地方整備局とも実施でき、令和6年度では北陸地方整備局とも意見交換会を開催するための調整に入っているなどの報告がありました。

また、平成22年度からの清掃作業量の激減により、道路清掃現場の劣悪な状況を発注者の方々などに理解してもらうためのビデオも新たに出来上がり、意見交換会などの協会活動で有効に使っていく方針の報告がありました。

年明けに発生した、能登半島地震の対応については、

「正月早々から断水地域に水を運ぶ災害支援業務を協会各社の協力のもと1月から3月まで延べ人数にして約1,500名の作業員が能登において活動を行いました。厳しい条件の中、作業にあたった各社の方々にごのお場をお借りして御礼を申し上げます、ありがとうございました。

しかし、他の業務と重なって出動できないという会社も多くあったと聞いております。今回の能登の震災にあたって、通常の道路清掃の稼働日数を確保することが如何に災害時に大切かを非常に強く感じました。なお、今年度より上下水道とも国土交通省の所掌になったとのことで、今後も被災による断水が発生した場合には、散水車を給水車として稼働させる場面が増えることが予想されますが、今は常時の仕事が少なく自治体や民間など、複数の仕事を限られた人員で実施している状況であるとともに、働き方改革などにより仕事に制限がかかるこれからの時代において、災害時だけ人を集めるということは非常に対応が難しい状況です。

常日頃安定した作業人員の確保をできるようにするには、発注時点で人員が常時確保できるだけの作業日数が必要であることから、清掃作業に対する予算の増額を協会として今後もアピールしていこうと思っております。」

など、今年度も意見交換会などで積極的に協会活動を図って行くとの挨拶がありました。

総会では、各議事進行を亀田理事長が務め、事務局から令和 5 年度の事業報告をはじめ、企画・広報部会、技術部会、安全部会の各部会長から令和 5 年度の活動報告がありました。また、事務局からは令和 5 年度の決算報告等の説明がされ、監査結果については小堀監事より「適正」との報告があり承認されました。

続けて令和 6 年度の事業計画案と収支予算書案が事務局より示されて承認されました。

#### 【令和 6 年度協会活動計画】

- 「道路清掃の基礎知識」の印刷
- 国土交通大学校研修や関東地方整備局、中部地方整備局、東北地方整備局、北陸地方整備局との意見交換会の実施
- 国土交通省関係部局に要望書等の提出
- 関東地方整備局が開催する道路清掃 WG にオブザーバ参加
- 道路清掃技術講習会（学科・実技）・安全講習会の実施
- 「道路清掃技術者」の検討
- 道路清掃作業に関する情報提供や広報を適宜発信する。

#### 【令和 6 年度実施予定】

令和 6 年 6 月	： 第 60 回定時総会の実施	(令和 6 年 6 月 3 日)
7 月	： 道路清掃技術講習会（学科）	(令和 6 年 7 月 19 日)
8 月	： 「道路せいそう」71 号の発行	(令和 6 年 8 月)
11 月	： 第 40 回 安全研修会の企画・開催	(令和 6 年 11 月 2 日予定)
	： 国土交通大学校研修講師	(令和 6 年 11 月 14 日予定)
	： 各地方整備局（関東・中部・東北・北陸）との意見交換会	
	： 道路清掃技術講習会（実技）	(令和 6 年 11 月予定)
令和 7 年 1 月	： 「道路せいそう」72 号の発行	(令和 7 年 1 月)



田中 康順 会長

終わりに当協会の田中会長より、本総会が 60 回となることのお祝いの言葉に引き続き、協会の活動について次の様なお話がありました。

「今年の 1 月には能登半島地震が発災して、1 月 3 日には会員各社が現地に向かったと聞いており、延べ 1,500 名の方々が、道路が寸断されて大変な状況の中で給水機能付き散水車により珠洲市や輪島市など飲料水などを供給されたと報告がありました。

大きな余震が続く中で危険をかえりみず、また車中泊をして作業をされているというのを聞いて協会会長として大変誇りに思っております。

派遣された皆様には本当にご苦労様でございました。

道路清掃は、道路の美観、安全な交通の確保、また橋梁などのインフラの長寿命化などに大きな役割を果たす仕事ですが、平成 22 年に行われた事業仕分けによる予算の大幅な減少、それにより作業量が不足し道路状況が悪化することに比例して、作業員にかかる負担が大きくなっている状況です。

また、今回のような未曾有の災害が発生すれば、散水車や災害対策車を輸送する人員として協会会員各社にしかオペレータを派遣できないという状況になっております。

各種諸問題を含め、災害対応の人員を確保するためにも道路清掃作業として発注の維持、当初発注金額の増額など協会活動に寄与することができればと思っております。」との挨拶がありました。

予定していた議事が終わり、稲垣事務局長の閉会の言葉で令和 6 年度の総会が無事に終わりました。

## 能登半島地震 災害派遣について

令和6年(2024年)1月1日16時10分ごろ、石川県能登半島地方を震源としたマグニチュード(M)7.6の地震(令和6年能登半島地震)が発生し、石川県輪島市門前町、羽咋郡羽志賀町では最大震度7を観測したことから、土砂災害、家屋の倒壊などが相次ぎ交通網の寸断をはじめ、水道や電気などのライフラインも断絶されるなど、能登半島を中心に北陸地方各地で甚大な被害が発生しました。

発災して間もなく、国土交通省の各地方整備局より給水支援を行うための散水車の派遣要請が協会各社にあり、1月3日から3月29日までに延べ1,512人が被災地での給水支援活動にあたりました。

余震もまだまだ続く多くの危険を伴う中での出動となり、当初指定された給水場所は金沢市内でしたが、急遽、富山市内方面に変更されるなど現地では相当な混乱が生じている中での災害派遣でした。

震源地に近い珠洲市の支援活動では、能越自動車道が甚大な被害を受け通行できないため、道路の損壊や家屋の倒壊で危険箇所が多い一般道の走行を余儀なくされ、地域に不慣れな道のを10時間以上かけての移動となりましたが、散水車の運転に熟練した運転員の方々とそれを支えた各社の努力により、車中泊を伴いながらも無事故・無災害で支援活動を行うことができました。

現地では、被災された方々への給水をはじめ、総合病院や洗濯支援車、移動式トイレなど生活に必要な水の供給を主に行い、被災地の救援と復旧へ貢献しました。

今後も、災害派遣について、当協会として積極的に協力する予定ですので、協会各社のご協力をよろしくお願いいたします。災害派遣に携われた皆様、本当にお疲れ様でした。



被災地支援へ向かう道路状況



被災地支援へ向かう道路状況



能登町における住民への給水



珠洲市内の総合病院への給水



洗濯支援車への給水



移動式トイレへの給水

## 令和6年度 道路清掃技術講習会(学科)を開催しました

本講習会は、道路清掃技術者の育成と知識の向上、継続を目的に実施しているもので、今年度より新たに名称を統一して、夏季に行う座学講習については「道路清掃技術講習会(学科)」とし、冬季に行う清掃車の実機を用いた講習については「道路清掃技術講習会(実技)」として実施することとなりました。

今回は、夏季である「令和6年度 道路清掃技術講習会(学科)」を、7月19日に台東区民会館にて開催いたしました。

講習会の開催に際して、年頭に発災した能登半島地震の対応へのお礼と今後の清掃業界の課題などの亀田理事長からの挨拶を稲垣事務局長が代読しました。

その後、来賓として出席していただいた関東地方整備局の小澤道路情報管理官からは、能登半島地震対応のお礼をはじめ、台風や集中豪雨で発生する冠水への対応、常時の道路清掃の必要性などを含めて挨拶をいただきました。

講習の冒頭で昨年度作成した、道路清掃の現状をまとめたビデオを観たのち、道路清掃の歴史や必要性、道路構造に対してどのような清掃の施工方法があるかなどの基礎知識をはじめ、関連法令や施工管理など幅広く講習を行いました。

講習会の参加者は、国土交通省関東地方整備局の技術エキスパート(道路構造物管理部会・機械部会)の方々を含めて、60名(内、技術エキスパート17名)の方が受講されました。



## 「道路清掃技術者」認定試験を実施しました

当協会が認定する「道路清掃技術者」とは、道路清掃作業の目的をはじめ、作業の種類と効果、作業に関連する法令や積算、施工計画、災害対応などの様々な技術知識を習得・熟知して、その能力を用いて現場で安全かつ効率的な施工を行える技術者と判断するため、「技術」と「能力」を客観的に評価する試験において合格した技術者を称しております。

今年度は37人が受験し全員が新たに認定技術者となり、これまでの合格者を含めて122名の方々を認定しております。

また、合格者には協会より「道路清掃技術者」であることを証明するバッジを配布しております。



道路清掃技術者へ渡されるバッジ



## 地域インフラを支える仕事に誇りを持って全力で取り組みます 北陸パブリックメンテナンス株式会社

この度、一般社団法人 日本道路清掃技術協会に入会させて頂きました北陸パブリックメンテナンス株式会社です。弊社は、新潟県下越地方の新潟市江南区に本社を置き、中越地方の長岡市、上越地方の上越市に支店を展開し、道路清掃、道路・河川の維持修繕工事を行っております。

北陸地方整備局の国道事務所発注の道路維持作業を受注し、継続して国道の清掃に従事し、全国でもトップクラスの交通量（約10万台/12h）を誇る新潟バイパスの清掃作業にも対応しております。

働き方改革以前より完全週休2日制度を取入れ、仕事の効率化や休暇を取得しやすい環境づくりにも取り組んでおります。



<多車線道路での路面清掃>



<交通量の多い幹線道路での夜間作業>



歩道内の土砂の堆積、堆積した箇所の雑草の繁茂、目地草の繁茂により歩行者等の通行に支障をきたさないように歩道清掃を実施しています。これまでは重機と人力の併用で作業を行っていましたが、時間的・経済的の面から効率的に清掃作業を行う為に道路清掃車【LADOG車】を活用しております。定期的に清掃作業を行うことで、従来の作業方法に比べ、清掃延長、日当たり作業量が伸びており、人出不足への対応など今後に期待が持てます。



<LADOG車による歩道清掃>



<LADOG車の全景>

これからも地域インフラを支える仕事に誇りを持って、微力ながら安全・安心を地域の皆様にお届けできるよう全力で取り組んで参ります。今後とも何卒宜しくお願い致します。

# 『道の駅』探訪記 Vol. 15 道の駅

## 雷電くるみの里 & マルメロの駅ながと



このたびの令和6年能登半島地震によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々に対し心よりお見舞い申し上げます。皆様が普段通りの生活に戻れますよう、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、今回も元気に行ってまいりました、道の駅探訪。企画・広報部会編集委員「MOO（ムー）」でございます。今回は長野県の道の駅にお邪魔してまいりました。今回も2本立てとなっております。

### 「道の駅 雷電くるみの里」

雷電?? 道の駅 雷電くるみの里へ向かう道中の話題はこの道の駅の名前についてでした。雷電ってなんだろうね? どこかで聞いたことのあるような、ないような...

道の駅 雷電くるみの里は、上信越道 小諸 IC で高速道路を降り、県道 79 号線を西へ走ること約 3km 東御市に所在します。到着してすぐわかりました。雷電とは、江戸時代の天下無双の大力士「雷電為右衛門」のことで、東御市滋野乙（この道の駅のすぐ近く）の生まれだそうです。

そんな雷電にまつわる展示館が敷地内にありましたので早速入ってみました。もちろん入場は無料です（笑）

江戸時代から始まり日本の国技となった相撲で、歴代最強と言われているのがこの雷電。身長 197cm?! の恵まれた体から繰り出される技の数々と圧倒的な力で勝ち星を積み上げていき、その生涯戦績は、ウソかマコトか驚異の「254 勝 10 負 2 分」勝率は「9 割 6 分 2 厘」なのだそう。化け物のような力士ですよ。しかしなんだよ 2 分けて...

強すぎたが故に、雷電は「張り手」と「かんぬき」と「突っ張り」の使用を禁じられていたという逸話もあるそうです。



雷電為右衛門像



朝採れキャベツが  
なんと 100 円!



雷電焼・くるみおはぎ  
ぎ・胡桃パイ・おやき



そして、駅の名前に使われている「くるみの里」ですが、長野県のくるみ生産量は全国でも 1 位。そしてここ東御市は長野県の中でも有数のくるみの産地なんだそうです。なるほど、道理でお土産コーナーの中でも“くるみ”コーナーが幅を利かせているわけだ。

朝から何も食べていない腹ペコな我々は「雷電焼」「おやき」「くるみおはぎ」などの長野県ご当地おやつで昼食までのエネルギーチャージをして、道の駅 雷電くるみの里を後にするのでした。

## 「道の駅 マルメロの駅ながと」

マルメロ?? 先ほどの道の駅 雷電くるみの里の時と同様、道の駅 マルメロの駅ながとへ向かう道中の話題はこの道の駅名「マルメロ」についてでした。

Googleで検索してみたところ、マルメロとは秋に採れるカリンに近い果実で、別名西洋カリンと呼ばれているようです。四十数年生きてきたのに、世の中にはまだ色々知らないことが多いなあ。皆様はマルメロってご存じでしたか?

この地域の活動として街道沿いに育てられていることから道の駅に名前がつけられたようです。そんな道の駅 マルメロの駅ながとは長野県佐久市から西へ30kmほど行った国道152号線沿いにあります。

道の駅内に入ってみると、種類豊富な高原野菜達のお隣りに、さすが信州そばで有名な長野県、所狭しと地元各社のお蕎麦が並んでおります。これだけ種類が多いとどのお蕎麦を買うか迷ってしまいますね。

ただ、季節的なものかもしれませんが、残念ながらマルメロについては果実だけでなくマルメロを使用した商品は見つかることができませんでした。マルメロ商品目当ての方はあまり過度な期待はしない方が良いでしょうね…。後日調べてみると、駅内の別棟にある「ながと製菓大島屋」さんにマルメロという名のお菓子が売っていたようです。残念。

こちらの道の駅 マルメロの駅ながとは、所在しているエリアの標高が高いため夏でも過ごしやすく、そして大人も子供も楽しめる観光スポットへ行くための拠点になるのがとても魅力的だと思います。また、周囲には蓼科高原や牧場、周囲の湖ではカヤックやカヌー、SUP(スタンドアップパドル)などのアクティビティも充実しているので観光する場所に困ることはないと思いますよ!

そして、こちらの駅には温泉施設「やすらぎの湯」が隣接しており、また敷地内に長和町観光協会や無料の足湯などもありますので、温泉や足湯に浸かりながら信州旅行の作戦会議もできそうです!



## 今回の立ち寄り

### 「北国街道 海野宿 (うんのじゅく)」

海野宿の歴史は古く、寛永二年(1625年)に北国街道の宿駅として開設され、現在は日本の道100選にも選ばれています。北国街道は追分から小諸を経て海野、上田を通って善光寺から越後に入り直江津に至る延長約140kmに及ぶ日本海側と太平洋側を結ぶ重要な街道でした。ここ海野宿では「うだつが上がった」宿屋がたくさんあり、加賀前田家をはじめ、北陸諸大名が参勤交代で通った道として、江戸との交通も盛んで、特に善光寺への参詣客も多く当時の海野宿は相当のにぎわいを呈していたことが想像できますね。

ところで、皆さまは「うだつ」という言葉の意味をご存じでしょうか? 「うだつが上がらない」といった使い方をしますよね! うだつとは、瓦の



ある日本家屋の屋根に取り付けられる小屋根のついた防火壁のことです。このうだつは、現代で言うところの特注のオプションとなりますので、うだつを上げるためにはそれなりの資金が必要となるため、裕福な家しか付けることができなかつたと言われていました。そこから、現代でも「うだつが上がらない」とは、出世がなかなかできないことや金銭的にうまくいかないことなどを指すようになったのですね。当時の人のちょっとした見栄ですかね(笑)

皆様もお近くに行かれた際は、日頃の喧噪や雑踏を離れ、江戸時代の旅籠屋造りや明治以降の堅牢な蚕室造りの建物などが並ぶ歴史情緒の溢れる町並みを眺めながら歩いてみてはいかがでしょうか。無料駐車場もあり、お蕎麦屋さんやカフェなども素敵でしたよ！



### 「草笛 小諸本店」

朝からおやつを食べたのみで、夏の暑さに負けず海野宿を散策した我々腹ペコ三兄弟が向かった先は、某飲食店口コミ評価サイトで そば EAST 百名店 2024 にも選ばれた信州そばの名店「草笛 小諸本店」さんにお邪魔して参りました。



くるみそば 中盛り



山菜そば 中盛り&かき揚げ



藤村(とうそん)そば 中盛り

(空腹のあまり店舗外観・内観の写真を撮り忘れしました。)

「くるみ蕎麦」、「藤村(とうそん)蕎麦」、「山菜蕎麦」それぞれを中盛りで注文。さすが百名店選出店！ツルツルでありながら歯ごたえのある麺。噛むと蕎麦の良い香りが口の中にフワッと広がります。また暑期中、信州で食べるもり蕎麦は蕎麦好きにはたまらない贅沢ですね。藤村そばにはリンゴの天ぷらが載っていました！“長野県ならではの”ですね！

※こちらの「中盛り」は想像以上のボリュームでした。私たちは日頃特別な訓練を受けておりますので完食できましたが、皆様がお立ち寄りの際は、「中盛り」は覚悟をもってご注文ください(笑)

今回は、道の駅探訪記初となる長野県へ行ってまいりました。長野県は中央自動車道と上信越自動車道が通っているため都心部からもアクセスしやすく、自然を楽しんだり避暑をするのに最高の場所だと思います。皆様のご旅行の候補地にしてみたいはいかがでしょうか？編集部員MOOによる『道の駅』探訪記、次号もまたご愛読をお願いします。

※記事は令和6年7月現在の情報です。直近の情報は各道の駅ホームページにてご確認ください。

### 編集後記

当協会では、道路清掃の大切さや現状を理解していただくために、発注者と相談を重ねながら改善を図って行くことが大切であるため、今までも関東地整と中部地整と意見交換会を実施しておりますが、令和5年度は東北地整とも開催ができました。更に令和6年度は、北陸地整との意見交換会の実施に向け、北陸地整の信田企画部長様、武藤道路部長様にご相談をさせていただいたところ、快く了承していただきました。

今後も協会として道路清掃作業の改善に向けて幅広く活動をしていければ良いと思っております。

今年の夏も暑いので、現場で作業されている皆様には、熱中症等に気を付けて作業に従事してください。